

水害から私たちの暮らしを守る

# 一級河川 平瀬川 背水堤防整備工事

---

---



水害から地域を守るために…

# 平瀬川に堤防をつくります

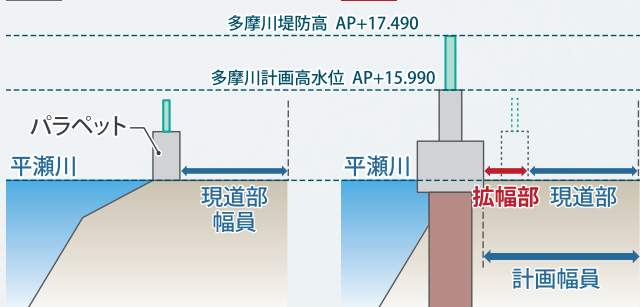
令和元年東日本台風により、多摩川田園調布(上)水位観測所等で計画高水位を越える状況の中、平瀬川においても水位が上昇し、管理用通路水抜き穴からの浸水、東久地橋桁下からの浸水、平瀬川の堤防からの越水が確認され、約6haの浸水被害が発生しました。

Map data ©2026 Google

## これからの水害に対応するために

現況

計画



本事業は令和元年の台風被害を受けて、今後起こりえる水害への対策として、令和3年度に策定された「多摩川水系平瀬川ブロック河川整備計画」に基づき、一級河川多摩川と一級河川平瀬川の合流部対策として多摩川計画堤防高に合わせた自立式特殊堤を平瀬川に構築する事業です。

## 洪水リスクの低減

新たに構築する自立式特殊堤の上部のアクリル止水パネルは、多摩川の堤防と同じ高さとなっているため、多摩川増水時の洪水リスクを低減します。

見えない部分も堅固な

# あたらしい堤防の特徴

アクリル  
止水パネル

本事業でつくるあたらしい堤防は、  
地中深さ約20mまで到達します。  
地中には役割の異なる2種類\*の  
埋設物を施工し、水害時に地域を  
守ります。

※1種類のみ場所もあり

高さ 最大約4.4m

深さ 約8m~9m

ハット型  
鋼矢板

深さ 約20m

鋼管杭

支持層

完成イメージ



地域の景観を守る

アクリル止水パネル

1.5mアクリル止水パネルの採用



効果

圧迫感が軽減し、景観性が向上。  
現況と同じくらいの日照を確保できます。

水害から地域を守る

ハット型鋼矢板

水をふせぐ



効果

ハット型鋼矢板\*を地中に連続して圧入  
することで、鋼製の壁を地中に構築し止水性  
を確保します。 ※長さ8~9m

鋼管杭

揺れにつよく



効果

地表面から約20mの深さにある硬い支持層  
(N値50以上の礫まじり細砂)まで、鋼管杭を  
圧入することで、水に押される力や揺れにも  
耐えられる堤防になります。